

## 特別講演

企画 埼玉医科大学乳腺腫瘍科 ・ 後援 埼玉医科大学卒後教育委員会

平成18年2月3日 於 埼玉医科大学第五講堂

厚生労働厚生労働科学研究・がん医療均てん研修会

— がん医療均てん化のための乳腺画像診断 —

司会：中島美智子（埼玉医科大学臨床検査医学）

講演Ⅰ「乳癌の超音波組織特性とその臨床応用」

植野 映

（筑波大学大学院人間総合研究科乳腺・甲状腺・内分泌外科）

講演Ⅱ「乳癌の術前化学療法施行例の超音波によるモニタリング」

水谷 三浩

（愛知県がんセンター愛知病院乳腺科）

司会：木村文子（埼玉医科大学放射線科）

講演Ⅲ「乳癌検診の現況」

大貫 幸二

（岩手県立中央病院外科・乳腺外科）

講演Ⅳ「乳腺疾患 “画像でどこまでわかるのか”」

菊池 真理

（聖路加国際病院放射線科）

植野先生は「乳癌の超音波組織特性とその臨床応用」と題して、乳癌の超音波診断の基礎的な原理と、カラードップラー・エラスチノグラムによる最新の悪性度診断について講演した。

水谷先生からは乳腺外科医の立場で乳癌術前化学療法施行後の画像評価と、外科手術の適応について実践的な話があった。結論としては術前化学療法により乳房温存率が向上するが、残存腫瘍の検索を行うと中心性壊死を起こす症例と、島状に腫瘍組織が残存することがわかった。司会の埼玉医科大学臨床検査医学講師中島美智子先生と詳細な討議があった。

大貫先生は、老人保健法の改正により、各市町村レベルでの検診事業が展開され、特域医師会を中心とするマンモグラフィ検診の導入に際しての歴史的経緯と世界の乳癌検診の実情について報告があった。さらにマンモグラフィ精度管理中央委員会の読影専門家、マンモグラフィ撮影技師の研修会の現状について説明

があった。また、マンモグラフィ検診制度管理中央委員会の委員としての立場からマンモグラフィ検診の今後の展開についてもお話しいただいた。

菊池先生は主としてMRIによる乳癌の質的診断、さらに乳癌広がり診断について最近の知見について講義をした。司会の埼玉医科大学放射線医学教授木村文子先生とMRIの有用性と限界について討議が行われた。乳癌の画像診断は診断機器の性能の向上と診断医の読影技術の研鑽から飛躍的な進歩を遂げているが、各種画像診断の特徴を理解し、至適診断法の組み合わせで質的診断と広がり診断を行うことが望ましいと結論づけた。

なお、2月4日（土）から5日（日）にかけて行われた埼玉医科大学マンモグラフィ読影講習会の受講生も参加し、埼玉医科大学卒業生のみならず、大学近隣の施設の医師の研修にも役立ったと考える。

（文責 佐伯俊昭）